

県内の外来植物情報がまとまりました！

千葉県内には、カミツキガメやアライグマやオオクチバス（ブラックバス）といった外来種の動物が増えており、そして、植物も外来種が野外に侵入して、昔からいる生きものや生態系、そして私たち人間の生活へも深刻な影響を与え、社会問題となっているものもあります。そこで、千葉県では外来植物について専門家の委員会を設け、現在県内で生育している「**外来植物のリスト**」を作成しました。

さて、クイズです

Q) 次のうち、**外来植物**はどれでしょうか？（いずれもよく見かける植物ですね）

アブラナ、キク、シソ、スイセン、キンモクセイ、ハチク、ムラサキツユクサ

A) すべてのが、外来植物として掲載されています。

身近な植物が実は外来種だったのですね。外来植物リストには全部で **948 種** が掲載されています。

すべての外来植物種の情報は、下記の県生物多様性センターのウェブサイト 外来種対策 で見られます。

「**外来種（植物）の現状等に関する報告（平成 22 年 3 月発行）**」 <http://www.bdcchiba.jp/alien/index.html>

現在、県内で野外に生育している植物は約 2,800 種であり、その内、千葉県レッドデータブックの掲載種は 964 種ですので、野生植物の 1/3 が絶滅の危機に瀕しており、また、1/3 が外来種であることから、千葉県内の植物を取り巻く状況は、大変な危機的状況であるといえます。

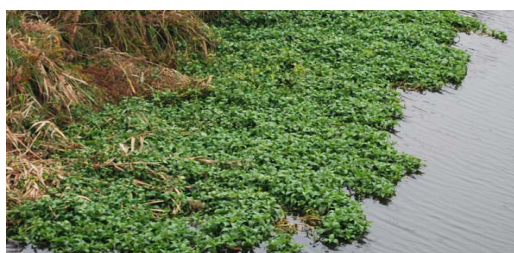
では、このように大量の外来種は、どのような経路により野外に逸出し定着していったのでしょうか？

一つには、**トキワツユクサ**、**オオキンケイギク**など園芸植物が野外に拡がったものが **304 種（全体の 32%）** あります。

また、**ナガバギシギシ**や**シバムギ**のように栽培植物とともに移動して放出されたものが **133 種** あります。

さらには、熱帯魚とともに販売されていた**アクアリウムプランツ（水草）**が捨てられて拡がったものが **16 種** あります。例としては、**ミズヒマワリ**や**ナガエツルノゲイトウ**のように、**在来種を駆逐してしまう旺盛な繁殖力を持ち、異常繁茂で水路の水流を妨げるなど人や生態系に甚大な影響を与えているもの**もあります。

このような外来種に対しては、広まる前の早期対策が必要で、野外での早期発見が不可欠です。このため、皆さまの調査報告が重要なモニタリング手段の一つとなっています。これまでも、多くの外来種情報を報告いただいており、感謝します。これからも監視の目を県内全域に広げていきたいと考えておりますので、引き続き、ご協力をお願いいたします。（浅田 正彦 千葉県生物多様性センター）



ミズヒマワリ（写真は調査団員 a0029）



オオフサモ（a0067）



ナガエツルノゲイトウ（a0329）

今年度第1回の調査団現地研修会（団員限定、50名）は、

平成 22 年 5 月 30（日）に県立中央博物館分館海の博物館で、初夏の海辺の生物を観察する予定です。別添「現地研修会の案内」をご覧ください。参加申込をお待ちしています。

～ 初夏の海辺の生きものを知ろう、磯の生きものを観察しよう!! ～

生物多様性に関する最新情報は、調査団のホームページで！

「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html> と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/> ホームページをご覧ください。最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報など 情報が盛り沢山です。

県内、特に北総地域の猛禽類サシバの生息情報を求めています！

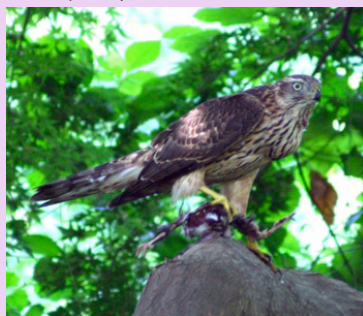
北総地域の谷津田周辺・里山には、猛禽類のサシバ（日本へ繁殖のために渡ってくる夏鳥）が生息しています。

サシバは、カエル類、ヘビ・トカゲ類や昆虫を食べるため、里山の生態系においては、食物連鎖の頂点にいる生きものです。サシバが生息している環境には、サシバを支えるこれらの小動物などが豊かにいることを示しているため、サシバは自然の豊かさの指標となる生物です。

5月からは、すでにサシバが営巣し始めていますので、観察は遠くからにとどめてください。営巣の確認や写真撮影のために、人が近づき過ぎると、サシバが警戒して巣やヒナを放棄してしまいます。7月に巣立つまでは距離をとって見守ってください。

＜サシバ、オオタカ幼鳥、トビの見分け方＞ 手持ちの鳥類図鑑等でも特徴を確認してください。

	サシバ	オオタカ・幼鳥	トビ
鳴き声	ピックイー	ケッケッケ・・・・	ピーヒョロロロ～
尾の形	丸みの小さい扇形	長く丸い扇形	三角形
翼	細長い	幅広く短い	長方形で先端が下がる
羽ばたき	浅く早い	深く早い	深くゆっくり



サシバの生息状況を明らかにして、生息数の増減と周辺の土地利用の変化との関係など、谷津田・里山の生物多様性の保全について検討していきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。（写真・a0512）

季節報告（今年の春は4月末まで寒さが続き、天候が不順でした。春の季節報告も長かったです）

○ウグイスの初鳴き：2月4日から始まり69件の報告があり、報告のピークは3月の上旬から中旬まで。銚子気象台の生物季節観測では3月17日（平年2月23日、前年3月9日）でした。

○アカガエル類の産卵：2月2日から始まり、3月26日まで続けました。産卵と成体の報告は34件でした。

○ソメイヨシノの開花：3月21日から報告が始まりましたが、開花後に寒が戻り、開花の進行も足踏みで、花期が長くなり、満開は4月上旬でした。

これからの生物報告

アジサイの両性花の開花

ホトギスの初鳴き

モリアオガエルの産卵

ナガサキアゲハ

ハマヒルガオ

セミの初鳴き（団通信8号参照）

調査報告をお待ちしています。

